

***堂平資料の中に1957～1958年頃の資料価値のあるアルバムを発見(1958年4月19日の日食記録写真)**

堂平観測所はハワイ観測所設置の見返りの形で2000年に廃止され、堂平観測所にあった観測野帳、天体写真乾板、図書等ほとんどの資料が三鷹に持ち帰られた。これ等の中の観測野帳No. 44～No. 56が入った箱の中に古いアルバムがあった。中をめくってみると1957年～1958年頃の写真のネガアルバム(写真1～写真3)であった。



写真1



右上 写真2 右下 写真3

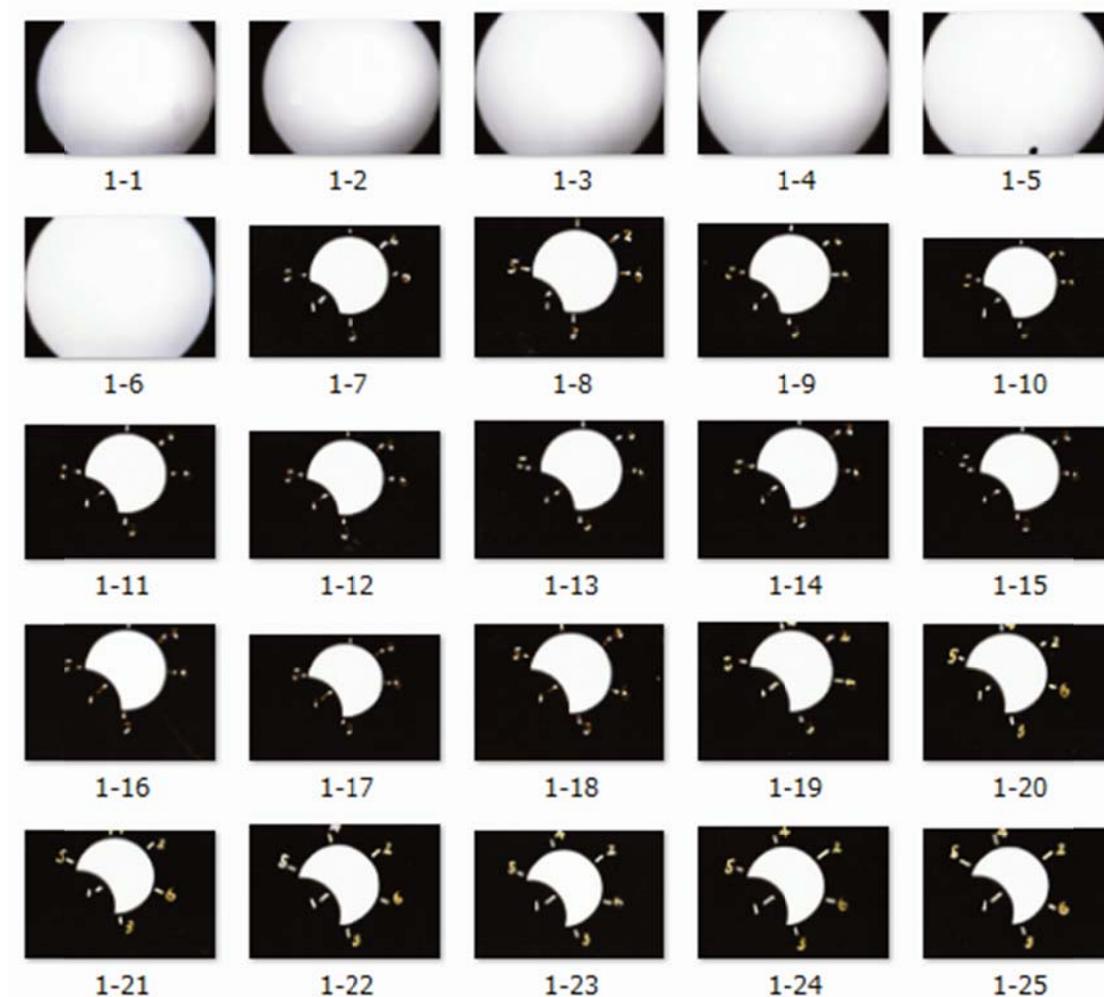
このアルバムに収録されているのは、アルバムに書かれた表題によると、

- 1) 1958年4月19日の八丈島日食(東京での部分日食)の記録写真 95コマ
- 2) 1958年3月 天文台写真 水晶時計、報時室、PZT
- 3) PZT 内部
- 4) 8吋、PZT 外部、子午環
- 5) 電波望遠鏡
- 6) 経度研究課
- 7) 子午線内部、人物は安田氏
- 8) PZT 測定室
- 9) 正門、本館
- 10) 10m パラボラアンテナ
- 11) ノイズ研究室
- 12) 10m アンテナ
- 13) 干渉計アンテナ
- 14) 子午環、PZT

- 1 5) 8吋太陽観測中
- 1 6) 太陽、モノクロマティックヘリオグラフ
- 1 7) 極望遠鏡 (三鷹設置のもの)
- 1 8) シュミット観測室
- 1 9) シュミット観測室 1957年8月3、15、19日撮影
- 2 0) ムーンウォッチデモ 於図書館前
- 2 1) シミット (シュミットの間違いだろう) 誕生記 1958年3月
- 2 2) 人工衛星観測用望遠鏡 1957年12月24日
- 2 3) New Heliograph
- 2 4) ノイズ、アンテナ

と、全てのコマ数では、6コマフィルムが12本入る台紙が12枚あるから単純に計算すると864コマだが、中に27枚映像がない部分があるので、837コマの写真がある。

上記に記したように、このアルバムは1957~1958年頃の東京天文台のかんりの機材の様子、研究室の様子を記録している貴重なものである。特に1)の八丈島日食の写真は日食の始まりから終わりまで追っている。この号では、この八丈島日食の写真を紹介する。





1-26



1-27



1-28



1-29



1-30



1-31



2-1



2-2



2-3



2-4



2-5



2-6



2-7



2-8



2-9



2-10



2-11



2-12



2-13



2-14



2-15



2-16



2-17



2-18



2-19



2-20



2-21



2-23



2-24



2-25



2-26



2-27



2-28



2-29



2-30



2-31



昭和 33 年 (1958 年) 4 月 19 日の八丈島日食は金環食で、東京天文台から種子島、八丈島に観測隊が派遣されている。八丈島には下保茂、内田正男、富田弘一郎、真鍋良之助の諸氏が派遣され、種子島には、斉藤国治、秦茂、河野毅、小林宏志が派遣された。八丈島では、直接写真が得られ、接触時刻の観測が行われた。その他この日食では、周縁減光の

光電測光が行われ、飛行機からの写真観測（西恵三、青ヶ島上空）、電波観測（赤羽賢司、三鷹）が行われたと東京天文台日食観測隊記録にある。

日食観測隊の記録を見て、この日食が金環食で、このアルバムの中に金環食時のものがないので、今回発見されたこの日食写真は、八丈島などに派遣された観測隊が撮影したものではなく、三鷹で部分日食として撮影したものであろうと気がついた次第である。

今回、この837コマの写真全てをデジタルデータとして取り込んだ。

なぜこのアルバムが堂平資料の中に入っていたのは謎ではある。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp